

はじめに (線形代数 II A)

線形代数 II = 線形代数 I のつづき

教科書 「やさしい線形代数, H. アントン著, 山下純一訳」 現代数学社

講義の情報 <http://mathweb.sc.niigata-u.ac.jp/~hoshi/teaching-j.html>

シラバス

[LINK](#)

- ▶ ノートを取りながら講義を聴くこと。
(ノートを回収して確認する可能性があります)
- ▶ 講義 → 小テスト (理解度確認テスト, 学務情報システム内)

4.2 線形空間

4.2 線形空間

注意

教科書では「線型」を使っているが、この授業では「線形」を使う。
「線型空間」 → 「線形空間」

4.2 線形空間

注意

教科書では「線型」を使っているが、この授業では「線形」を使う。
「線型空間」 → 「線形空間」

V : 集合

4.2 線形空間

注意

教科書では「線型」を使っているが、この授業では「線形」を使う。
「線型空間」 → 「線形空間」

V : 集合

n 次元ユークリッド空間 \mathbb{R}^n $\leadsto V$: 線形空間
一般化

4.2 線形空間

注意

教科書では「線型」を使っているが、この授業では「線形」を使う。
「線型空間」 → 「線形空間」

V : 集合

n 次元ユークリッド空間 \mathbb{R}^n $\leadsto V$: 線形空間
一般化

注意

$\exists!$ は「一意的(ただ一つ)に存在」($\exists!$ も同様)

$\exists \sim \text{s.t. } \cdots$ の s.t. は such that の略で \cdots をみたすような

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)
3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)
4. $\exists ! \phi \in V$ s.t. $u + \phi = \phi + u = u$

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists ! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists ! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists ! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists ! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

公理 6. $u \in V, k \in \mathbb{R}$, スカラー一倍 $k u \in V$ が定義されている.

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

公理 6. $u \in V, k \in \mathbb{R}$, スカラ一倍 $k u \in V$ が定義されている.

7. $k(u + v) = k u + k v$ (分配法則 1)

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

公理 6. $u \in V, k \in \mathbb{R}$, スカラー一倍 $k u \in V$ が定義されている.

7. $k(u + v) = k u + k v$ (分配法則 1)

8. $(k + l)u = k u + l u$ (分配法則 2)

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

公理 6. $u \in V, k \in \mathbb{R}$, スカラ一倍 $k u \in V$ が定義されている.

7. $k(u + v) = k u + k v$ (分配法則 1)

8. $(k + l)u = k u + l u$ (分配法則 2)

9. $k(l u) = (kl)u$

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

公理 6. $u \in V, k \in \mathbb{R}$, スカラ一倍 $k u \in V$ が定義されている.

7. $k(u + v) = k u + k v$ (分配法則 1)

8. $(k + l)u = k u + l u$ (分配法則 2)

9. $k(l u) = (kl)u$

10. $1 \cdot u = u$

定義 (線形空間 V) [\mathbb{C} 上や体 K 上もあるがこの授業では扱わない]

V : 集合, $\forall u, v, w \in V, \forall k, l \in \mathbb{R}$ が次の 10 個の公理をみたすとき, V を (\mathbb{R} 上の) 線形空間, 元 $u \in V$ を ベクトル という.

公理 1. $u, v \in V$, 和 $u + v \in V$ が定義されている.

2. $u + v = v + u$ (交換法則)

3. $u + (v + w) = (u + v) + w$ (結合法則)

4. $\exists! \theta \in V$ s.t. $u + \theta = \theta + u = u$

5. $\forall u \in V \exists! -u \in V$ s.t. $u + (-u) = (-u) + u = \theta$

(θ を ゼロ・ベクトル, $-u$ を u の逆元 という)

公理 6. $u \in V, k \in \mathbb{R}$, スカラ一倍 $k u \in V$ が定義されている.

7. $k(u + v) = k u + k v$ (分配法則 1)

8. $(k + l)u = k u + l u$ (分配法則 2)

9. $k(l u) = (kl)u$

10. $1 \cdot u = u$

注意

\mathbb{R}^n は公理 1~10 をみたし線形空間. (ほかにも色々な線形空間がある)

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \bullet (x, y, z) = 0$)

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \bullet (x, y, z) = 0$)

$\therefore \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \bullet (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \bullet (x, y, z) = 0$)

$\therefore \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$
 $\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \bullet (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $u = (u_1, u_2, u_3), v = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \cdot (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

$$\Rightarrow \mathbf{u} + \mathbf{v} = (u_1 + v_1, u_2 + v_2, u_3 + v_3) \in V.$$

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \cdot (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

$$\Rightarrow \mathbf{u} + \mathbf{v} = (u_1 + v_1, u_2 + v_2, u_3 + v_3) \in V.$$

(公理 4) $\mathbf{0} = (0, 0, 0) \in V$.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \cdot (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

$$\Rightarrow \mathbf{u} + \mathbf{v} = (u_1 + v_1, u_2 + v_2, u_3 + v_3) \in V.$$

(公理 4) $\mathbf{0} = (0, 0, 0) \in V$.

(公理 5) $-\mathbf{u} = (-u_1, -u_2, -u_3) \in V$.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \cdot (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

$$\Rightarrow \mathbf{u} + \mathbf{v} = (u_1 + v_1, u_2 + v_2, u_3 + v_3) \in V.$$

(公理 4) $\mathbf{0} = (0, 0, 0) \in V$.

(公理 5) $-\mathbf{u} = (-u_1, -u_2, -u_3) \in V$.

$$(\because au_1 + bu_2 + cu_3 = 0 \Rightarrow a(-u_1) + b(-u_2) + c(-u_3) = 0)$$

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \cdot (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

$$\Rightarrow \mathbf{u} + \mathbf{v} = (u_1 + v_1, u_2 + v_2, u_3 + v_3) \in V.$$

(公理 4) $\mathbf{0} = (0, 0, 0) \in V$.

(公理 5) $-\mathbf{u} = (-u_1, -u_2, -u_3) \in V$.

$$(\because au_1 + bu_2 + cu_3 = 0 \Rightarrow a(-u_1) + b(-u_2) + c(-u_3) = 0)$$

(公理 6) $k\mathbf{u} = (ku_1, ku_2, ku_3) \in V$.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid ax + by + cz = 0\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面
は線形空間. (ベクトル (a, b, c) と直交する平面 $(a, b, c) \cdot (x, y, z) = 0$)

$\because \mathbb{R}^3$ は線形空間であり, $V \subset \mathbb{R}^3$ より V は公理 2,3,7,8,9,10 をみたす.
(\mathbb{R}^3 全体で成立)

(公理 1) $\mathbf{u} = (u_1, u_2, u_3), \mathbf{v} = (v_1, v_2, v_3) \in V$

$$\Rightarrow au_1 + bu_2 + cu_3 = 0, av_1 + bv_2 + cv_3 = 0$$

$$\Rightarrow a(u_1 + v_1) + b(u_2 + v_2) + c(u_3 + v_3) = 0$$

$$\Rightarrow \mathbf{u} + \mathbf{v} = (u_1 + v_1, u_2 + v_2, u_3 + v_3) \in V.$$

(公理 4) $\mathbf{0} = (0, 0, 0) \in V$.

(公理 5) $-\mathbf{u} = (-u_1, -u_2, -u_3) \in V$.

$$(\because au_1 + bu_2 + cu_3 = 0 \Rightarrow a(-u_1) + b(-u_2) + c(-u_3) = 0)$$

(公理 6) $k\mathbf{u} = (ku_1, ku_2, ku_3) \in V$.

$$(\because au_1 + bu_2 + cu_3 = 0 \Rightarrow a(ku_1) + b(ku_2) + c(ku_3) =$$

$$k(au_1 + bu_2 + cu_3) = k \cdot 0 = 0).$$

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = M_{m,n} = \{ \text{実数成分の } m \times n \text{ 行列} \}$ は

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = M_{m,n} = \{ \text{実数成分の } m \times n \text{ 行列} \}$ は線形空間.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = M_{m,n} = \{ \text{実数成分の } m \times n \text{ 行列} \}$ は線形空間.

∴ 和：行列の和，ゼロ・ベクトル：零行列 \mathbf{O} ,

逆元： A の逆元は $-A$ ，スカラー倍：行列のスカラー倍 kA .

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = M_{m,n} = \{ \text{実数成分の } m \times n \text{ 行列} \}$ は線形空間.

∴ 和：行列の和，ゼロ・ベクトル：零行列 \mathbf{O} ,

逆元： A の逆元は $-A$ ，スカラー倍：行列のスカラー倍 kA .

例

$V = \{f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}\}$ \mathbb{R} 上の実数値関数全体は

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = M_{m,n} = \{ \text{実数成分の } m \times n \text{ 行列} \}$ は線形空間.

∴ 和：行列の和，ゼロ・ベクトル：零行列 \mathbf{O} ,

逆元： A の逆元は $-A$ ，スカラー倍：行列のスカラー倍 kA .

例

$V = \{f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}\}$ \mathbb{R} 上の実数値関数全体は線形空間.

例

$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x = at, y = bt, z = ct \ (t \in \mathbb{R})\}$ 原点を通る \mathbb{R}^3 内の直線は線形空間.

∴ 省略. 上の例と同様. (各自考えてみる)

例

$V = M_{m,n} = \{ \text{実数成分の } m \times n \text{ 行列} \}$ は線形空間.

∴ 和: 行列の和, ゼロ・ベクトル: 零行列 \mathbf{O} ,

逆元: A の逆元は $-A$, スカラー倍: 行列のスカラー倍 kA .

例

$V = \{f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}\}$ \mathbb{R} 上の実数値関数全体は線形空間.

∴ 和: $(f + g)(x) := f(x) + g(x)$, ゼロ・ベクトル: $f = 0$,

逆元: f の逆元は $-f$, スカラー倍: $(kf)(x) := k f(x)$.

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.
 $\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

$\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{\emptyset\}$ ゼロ・ベクトルからなる 1 点集合は

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

$\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{\emptyset\}$ ゼロ・ベクトルからなる 1 点集合は線形空間.

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

$\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{\emptyset\}$ ゼロ・ベクトルからなる 1 点集合は線形空間.

例えば, $V = \{(0, 0, 0)\} \subset \mathbb{R}^3$.

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

$\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{\emptyset\}$ ゼロ・ベクトルからなる 1 点集合は線形空間.

例えば, $V = \{(0, 0, 0)\} \subset \mathbb{R}^3$.

例

$V = \{ \text{実数列 } \{a_n\} \}$ 実数列全体は

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

$\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{\emptyset\}$ ゼロ・ベクトルからなる 1 点集合は線形空間.

例えば, $V = \{(0, 0, 0)\} \subset \mathbb{R}^3$.

例

$V = \{ \text{実数列 } \{a_n\} \}$ 実数列全体は線形空間.

例

$V = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid x \geq 0, y \geq 0\}$ は線形空間でない.

$\because (1, 1) \in V$ だが逆元 $-(1, 1) = (-1, -1) \notin V$.

例

$V = \{\emptyset\}$ ゼロ・ベクトルからなる 1 点集合は線形空間.

例えば, $V = \{(0, 0, 0)\} \subset \mathbb{R}^3$.

例

$V = \{ \text{実数列 } \{a_n\} \}$ 実数列全体は線形空間.

$\because a = \{a_n\}, b = \{b_n\}$ に対して,

和: $a + b := \{a_n + b_n\}$, ゼロ・ベクトル: $\{0\} = \{0, 0, 0, \dots\}$,

逆元: a の逆元は $-a := \{-a_n\}$, スカラ一倍: $ka := \{ka_n\}$.

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は線形空間.

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,

逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,

逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

例

$V = \mathbb{R}[X]_n = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}\}$ n 次以下の実数
係数の 1変数多項式全体は

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,

逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

例

$V = \mathbb{R}[X]_n = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}\}$ n 次以下の実数
係数の 1変数多項式全体は線形空間.

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,
逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

例

$V = \mathbb{R}[X]_n = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}\}$ n 次以下の実数
係数の 1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,
逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

例

$V = \mathbb{R}[X] = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}, n \geq 0\}$ 実数係数の
1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,
逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

例

$V = \mathbb{R}[X]_n = \{f = a_n X^n + \cdots + a_1 X + a_0 \mid a_i \in \mathbb{R}\}$ n 次以下の実数
係数の 1変数多項式全体は線形空間.

∴ 和：多項式の和 $f + g$, ゼロ・ベクトル： $0 \in \mathbb{R}$,
逆元： f の逆元は $-f$, スカラー倍： $kf \in V$.

- ▶ 教 pp.161～163 の練習問題 4.2 を各自やってみる

定理 3

V : 線形空間, $\mathbf{u} \in V, k \in \mathbb{R}$.

定理 3

V : 線形空間, $\mathbf{u} \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0}$.
- (b) $k \cdot \mathbf{0} = \mathbf{0}$.
- (c) $(-1) \cdot \mathbf{u} = -\mathbf{u}$.
- (d) $k \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0} \Rightarrow k = 0$ または $\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

定理 3

V : 線形空間, $\mathbf{u} \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0}$.
- (b) $k \cdot \mathbf{0} = \mathbf{0}$.
- (c) $(-1) \cdot \mathbf{u} = -\mathbf{u}$.
- (d) $k \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0} \Rightarrow k = 0$ または $\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

定理 3

V : 線形空間, $\mathbf{u} \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0}$.
- (b) $k \cdot \mathbf{0} = \mathbf{0}$.
- (c) $(-1) \cdot \mathbf{u} = -\mathbf{u}$.
- (d) $k \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0} \Rightarrow k = 0$ または $\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot \mathbf{u} + 0 \cdot \mathbf{u} \underset{\text{公理 8}}{=} (0 + 0) \cdot \mathbf{u} = 0 \cdot \mathbf{u}.$$

定理 3

V : 線形空間, $\mathbf{u} \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0}$.
- (b) $k \cdot \mathbf{0} = \mathbf{0}$.
- (c) $(-1) \cdot \mathbf{u} = -\mathbf{u}$.
- (d) $k \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0} \Rightarrow k = 0$ または $\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

(a) $0 \cdot \mathbf{u} + 0 \cdot \mathbf{u} \underset{\text{公理 8}}{=} (0 + 0) \cdot \mathbf{u} = 0 \cdot \mathbf{u}$. 公理 5 より $0 \cdot \mathbf{u}$ の逆元 $-0 \cdot \mathbf{u}$ が存在し,

定理 3

V : 線形空間, $\mathbf{u} \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0}$.
- (b) $k \cdot \mathbf{0} = \mathbf{0}$.
- (c) $(-1) \cdot \mathbf{u} = -\mathbf{u}$.
- (d) $k \cdot \mathbf{u} = \mathbf{0} \Rightarrow k = 0$ または $\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

(a) $0 \cdot \mathbf{u} + 0 \cdot \mathbf{u} \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot \mathbf{u} = 0 \cdot \mathbf{u}$. 公理 5 より $0 \cdot \mathbf{u}$ の逆元 $-0 \cdot \mathbf{u}$ が存在し, 両辺に足すと

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$\begin{aligned} (a) \quad & 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{\Rightarrow} \\ & 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{\Rightarrow} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{\Rightarrow} 0 \cdot u = \emptyset. \end{aligned}$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset.$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より,}$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \varnothing$.
- (b) $k \cdot \varnothing = \varnothing$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \varnothing \Rightarrow k = 0$ または $u = \varnothing$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

- (a) $0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u$. 公理 5 より $0 \cdot u$ の逆元 $-0 \cdot u$ が存在し, 両辺に足すと $(0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{\Rightarrow} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \varnothing \stackrel{\text{公理 5}}{\Rightarrow} 0 \cdot u + \varnothing = \varnothing \stackrel{\text{公理 4}}{\Rightarrow} 0 \cdot u = \varnothing$.
- (b) $k \cdot \varnothing \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\varnothing + \varnothing) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \varnothing + k \cdot \varnothing$. よって公理 5 より, $k \cdot \varnothing$ の逆元 $-k \cdot \varnothing$ をとれば (a) と同様.

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \varnothing$.
- (b) $k \cdot \varnothing = \varnothing$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \varnothing \Rightarrow k = 0$ または $u = \varnothing$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$\begin{aligned} (a) \quad & 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{\Rightarrow} \\ & 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \varnothing \stackrel{\text{公理 5}}{\Rightarrow} 0 \cdot u + \varnothing = \varnothing \stackrel{\text{公理 4}}{\Rightarrow} 0 \cdot u = \varnothing. \\ (b) \quad & k \cdot \varnothing \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\varnothing + \varnothing) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \varnothing + k \cdot \varnothing. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \varnothing \text{ の逆元 } \\ & -k \cdot \varnothing \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \end{aligned}$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ = (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{\text{(a)}}{=} \emptyset.$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{(a)}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{(a)}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

- (d) (背理法)

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{\text{(a)}}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

- (d) (背理法) $k \neq 0$ かつ $u \neq \emptyset$ を仮定.

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{\text{(a)}}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

(d) (背理法) $k \neq 0$ かつ $u \neq \emptyset$ を仮定. $k \cdot u = \emptyset$ の両辺に $\frac{1}{k}$ をかけて,

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{\text{(a)}}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

$$(d) \text{ (背理法) } k \neq 0 \text{かつ } u \neq \emptyset \text{ を仮定. } k \cdot u = \emptyset \text{ の両辺に } \frac{1}{k} \text{ をかけて,} \\ (\text{左辺}) \frac{1}{k}(k \cdot u) \stackrel{\text{公理 9}}{=} 1 \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} u$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{(a)}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

$$(d) \text{ (背理法) } k \neq 0 \text{かつ } u \neq \emptyset \text{ を仮定. } k \cdot u = \emptyset \text{ の両辺に } \frac{1}{k} \text{ をかけて,} \\ (\text{左辺}) \frac{1}{k}(k \cdot u) \stackrel{\text{公理 9}}{=} 1 \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} u$$

$$(\text{右辺}) \frac{1}{k} \cdot \emptyset \stackrel{(b)}{=} \emptyset.$$

定理 3

V : 線形空間, $u \in V, k \in \mathbb{R}$.

- (a) $0 \cdot u = \emptyset$.
- (b) $k \cdot \emptyset = \emptyset$.
- (c) $(-1) \cdot u = -u$.
- (d) $k \cdot u = \emptyset \Rightarrow k = 0$ または $u = \emptyset$.

(証明) (公理 1 から公理 10 のみを用いて示す)

$$(a) 0 \cdot u + 0 \cdot u \stackrel{\text{公理 8}}{=} (0+0) \cdot u = 0 \cdot u. \text{ 公理 5 より } 0 \cdot u \text{ の逆元 } -0 \cdot u \text{ が存在し, 両辺に足すと } (0 \cdot u + 0 \cdot u) + (-0 \cdot u) = 0 \cdot u + (-0 \cdot u) \stackrel{\text{公理 3,5}}{=} 0 \cdot u + (0 \cdot u + (-0 \cdot u)) = \emptyset \stackrel{\text{公理 5}}{=} 0 \cdot u + \emptyset = \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} 0 \cdot u = \emptyset.$$

$$(b) k \cdot \emptyset \stackrel{\text{公理 4}}{=} k \cdot (\emptyset + \emptyset) \stackrel{\text{公理 7}}{=} k \cdot \emptyset + k \cdot \emptyset. \text{ よって公理 5 より, } k \cdot \emptyset \text{ の逆元 } -k \cdot \emptyset \text{ をとれば (a) と同様. (c) } u + (-1) \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} 1 \cdot u + (-1) \cdot u \\ \stackrel{\text{公理 8}}{=} (1-1) \cdot u = 0 \cdot u \stackrel{(a)}{=} \emptyset. \text{ よって, } -u = (-1) \cdot u.$$

(d) (背理法) $k \neq 0$ かつ $u \neq \emptyset$ を仮定. $k \cdot u = \emptyset$ の両辺に $\frac{1}{k}$ をかけて,

$$(\text{左辺}) \frac{1}{k}(k \cdot u) \stackrel{\text{公理 9}}{=} 1 \cdot u \stackrel{\text{公理 10}}{=} u$$

$$(\text{右辺}) \frac{1}{k} \cdot \emptyset \stackrel{(b)}{=} \emptyset. \text{ よって } u = \emptyset \text{ となり矛盾.}$$

□